

田人地区 地域おこし協力隊

10月号

ちーの山暮らし物語



小白井きゅうり

小白井きゅうりとは、川前町小白井地区で古くから栽培されている皮がやわらかく、肉質はシャキツとして歯切れがいい在来種のきゅうりです。

今年の夏、いわき伝統野菜保存会からいただいた小白井きゅうりの種をまきました。二十二粒の種をまき、六粒の芽が出てきました。

葉が柔らかくてみずみずしい幼苗にウリハムシがいっぱい寄ってきました。恐ろしいです！きゅうりを虫から守る為に、虫さんと相談しながら、きゅうりの株の周りが草ぼうぼうにならないように除草しました。

天は人の努力を見捨てていないようです。きゅうりが無事に大きくなりました。今回も、いつもお世話になっているYさんの協力をいただいて、きゅうりの家と一緒に作りました。しかし、真最中に強風で支柱が折れてしまい、一度直しました。

小白井きゅうりは実る数が少ないため、今年は大量生産ではなく、種を保存できるように、自家採種しました。来年は増やしていきたいと思います！

栽培期間中農薬不使用畑見学

今回、田人で農薬不使用の野菜を勉強する為にMさんの畑に見学に行きました。Mさんの畑はイタリアの伝統野菜のズッキーニ、長くて硬くないオクラなど珍しい野菜を栽培しています。

畑見学をきっかけにズッキーニをいただきました。「長くて曲がって袋に入れない変な形ですなーどんな味がするのだろう。」と最初は思いましたが、料理して食べてみたら、くせがなく、みずみずしくて柔らかくて、とても美味しいものでした。

オクラの管理の仕方は、収穫する度に下の葉を取り、下から上にどんどん収穫していきます。自家採種について、一番下のオクラを残すと、上のオクラに少し影響がありますが、完熟までの時間を考え、一番下のオクラを残すことにしたとMさんから聞きました。

自分の畑は、上のオクラに影響がないよう、上段の種を残したかった為、下のオクラを収穫してしまいました。完熟のオクラの種を取る為に、オクラの株の状態を見ながら、中段のオクラを残しています。質の良い種が取れるよう、オクラに愛情を注ぎ続けます！



田人ではお盆が明けると大根の種まきの時期になります。土地の養分を考え、前作は豆だった圃場を除草し耕しました。そして、鋤で七列の畝を立てて、株間を三十センチにして大根の種を三粒ずつまきました。畑まで水路が通っていないので、トリツトルのじょうろ二つに水を汲み、何回も運んでかけました。

お盆明け頃の天気は暑くて雨が降らなかったため、水をかけても芽が三分の一位しか出ませんでした。九月の上旬に雨が降る予報があり、曇の日に草刈りをしながら、雨が降る前に残りの種をまきました。久々の恵の雨のおかげで、今回は芽が順調に出ました。雨に伴い、草も雨後の筍のように出てきたので、元氣すぎるお日さまの下で、大根の間引き、草むしりをしました。

大根さんがゆっくりと成長しています。冬になったら、お鍋、おでん、煮込み料理などの美味しい食卓が楽しみです！今日も大根さんと一緒に頑張ります！

大根の栽培



中国語ミニ教室

今日の単語は

ラー ジャウ
辣 椒

訳: 唐辛子 (とうがらし)